１　調査の目的

本調査は、区政に対する区民の意識や意向、評価などを把握し、今後の行政施策の検討・立案の際の基礎的参考資料として活用することを目的に実施した。

２　調査の内容

1　定住性について
2　生活環境について
3　重点施策について
4　地域活動への参加について
5　地域スポーツの推進について
6　みどりについて
7　環境について
8　ごみ減量・リサイクルについて
9　心の健康について
10　防災について
11　広報と情報化について
12　シティプロモーションについて

３　調査設計

（１）調査地域　　品川区全域
（２）調査対象　　品川区在住の満 18 歳以上の男女個人（令和 2 年 8 月 1 日現在）
（３）標 本 数　　2,500 標本
（４）母 集 団　　品川区住民基本台帳の満 18 歳以上の男女個人
（５）抽出方法　　層化二段無作為抽出法
品川、大崎、大井、荏原、八潮の５地域を基本に８地域に層化し、
地域の人口比に応じて地点数を比例配分する。
（６）調査方法　　郵送配布・郵送回収またはインターネット回答
（７）調査期間　　令和 2 年 9 月 10 日～9 月 30 日
（８）調査機関　　株式会社　CCN グループ

地域区分図

調査地域内訳

地　域　名	左記地域に包括される町（丁）名
品　川　地　域	東品川、北品川、南品川、西品川、広町
大　崎　地　域	上大崎、東五反田、西五反田、大崎
大 井 東 地 域	東大井、南大井、勝島
八　潮　地　域	八潮
大 井 西 地 域	大井、西大井
荏 原 東 地 域	戸越、豊町、二葉
荏 原 中 地 域	平塚、中延、西中延、東中延、旗の台（２～５丁目）
荏 原 西 地 域	小山台、小山、荏原、旗の台（１・６丁目）

※参考：各地域の高齢化率（総人口に占める 65 歳以上の人口の割合・令和 2 年 8 月 1 日現在）

各地域の高齢化率

	区全体	品川	大崎	大井東	八潮	大井西	荏原東	荏原中	荏原西
総 人 口　（人）	408,050	76,368	69,788	56,758	11,839	48,128	43,952	48,840	52,377
65歳以上（人）	82,100	14,771	11,563	9,867	4,247	9,879	10,533	10,630	10,610
高齢化率（%）	20.1	19.3	16.6	17.4	35.9	20.5	24.0	21.8	20.3

４　回収結果

（１） 標　本　数　　2,500

（２） 有効回収数　　1,526　　（有効回収率：61.0%）

（３） 地域別回収結果

地域別回収結果

地　　域	18歳以上人口（人）	構成比（%）	標本数（人）	回収数（人）	回収率（%）
区　全　体	352,757	100.0	2,500	1,526	61.0
品川地域	65,048	18.4	464	279	60.1
大崎地域	60,218	17.1	433	238	55.0
大井東地域	48,781	13.8	350	220	62.9
八潮地域	10,376	2.9	72	44	61.1
大井西地域	41,167	11.7	291	190	65.3
荏原東地域	38,841	11.0	269	171	63.6
荏原中地域	42,843	12.2	300	174	58.0
荏原西地域	45,483	12.9	321	195	60.7

5　報告書を読む際の留意点

（１）　回答比率（%）は、当該選択肢の回答者数を、各層における回答者の総数（表中の“ｎ”）で除算している。なお、回答比率（%）は小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表記している。

（２）　単一回答の設問では、集計表の数値が上記（１）における四捨五入の処理のため、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合がある。また、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると 100%以上となる。

（３）　クロス集計のグラフや表について、表側（表の左側に配置される項目）となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含まれるので、表側の各層における件数の合計が、全体の件数と一致しない場合がある。

（４）　数値を読み解く際、特に回答者数が少ない層においては、その標本誤差に留意する必要がある。

（５）　「10 代の回答数」は回答数が少ないため、「20 代」に含んで集計を実施している。

（６）　標本誤差 d は層化二段無作為抽出法においては以下の計算式で表される。

$$d = \pm\lambda \times \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

λ：信頼係数
Ｎ：母集団の大きさ
ｎ：回答者の総数
ｐ：回答比率

95%信頼水準の場合、信頼係数は1.96であり、また、母集団の大きさが標本の大きさに対して十分に大きいとき、$\frac{N-n}{N-1} \fallingdotseq 1$となるため、上記の式は以下のように近似できる。

$$d = \pm 1.96 \times \sqrt{2 \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

下表は本報告書において簡便に標本誤差を確認できるようにした早見表である。

標本誤差早見表

回答比率（P）／n	10%または90%程度	20%または80%程度	30%または70%程度	40%または60%程度	50%程度
1,526	± 1.54	± 2.05	± 2.35	± 2.51	± 2.56
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
700	± 2.27	± 3.02	± 3.46	± 3.70	± 3.78
500	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
300	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00

（7）本文やグラフ・集計表上の表記は、紙面の都合上、語句を簡略化している場合がある。

（8）ライフステージの分類は以下のとおりである。

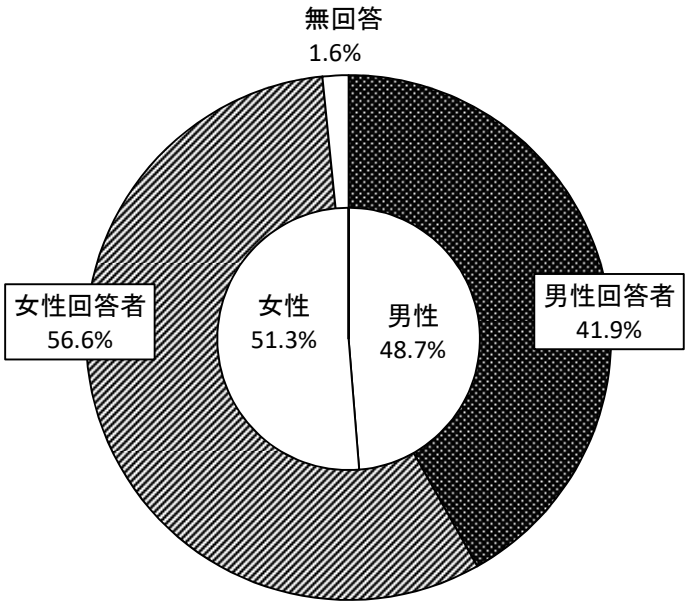
A．独　身　期　40 歳未満の独身者
B．家 族 形 成 期　40 歳未満の子供のいない夫婦または一番上の子供が小学校入学前の人
C．家族成長前期　一番上の子供が小・中学生の人
D．家族成長後期　一番上の子供が高校・大学生の人
E．家 族 成 熟 期　64 歳以下で一番上の子供が学校を卒業している人
F．高　齢　期　65 歳以上の人
G．そ　の　他　40 歳～64 歳の独身者、40 歳～64 歳の子供がいない夫婦など

6　母集団との比較

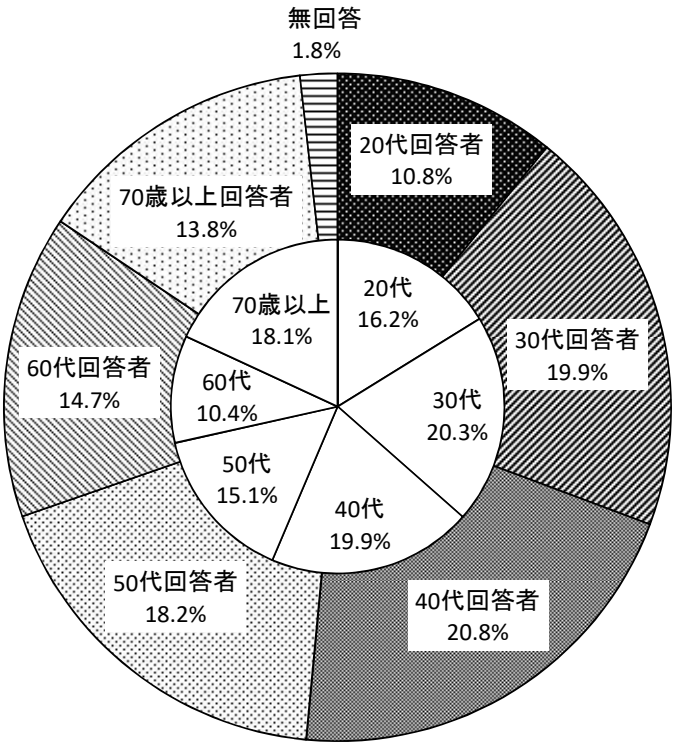
母集団（品川区住民基本台帳の18歳以上の男女個人）と比べると、調査回答者の性別では女性が5.3ポイント高くなっている。また、年齢では50代の回答者が3.1ポイント高く、70歳以上の回答者が4.3ポイント低くなっている。

（注）母集団は、品川区の総人口：408,050人（男性200,098人、女性207,952人）から、
0歳～17歳人口：55,293人（男性28,136人、女性27,157人）を除いた人数となる。

（1）性別



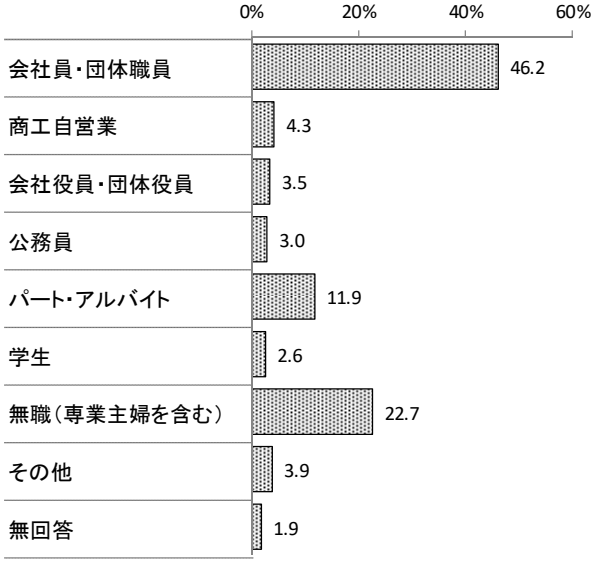
（2）年齢



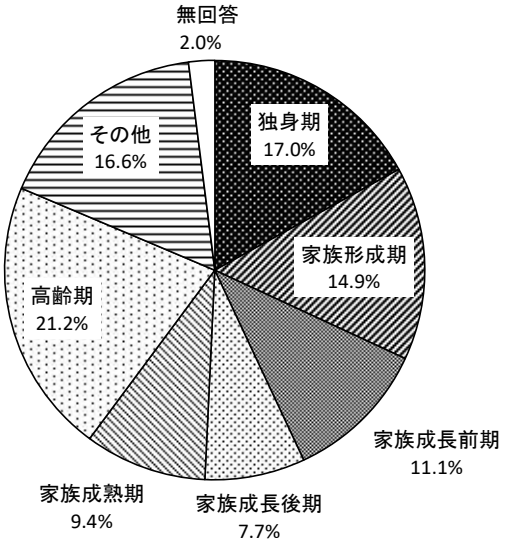
（注意）内円は母集団の、外円は調査回答者の構成比を表している。

7　調査回答者の属性

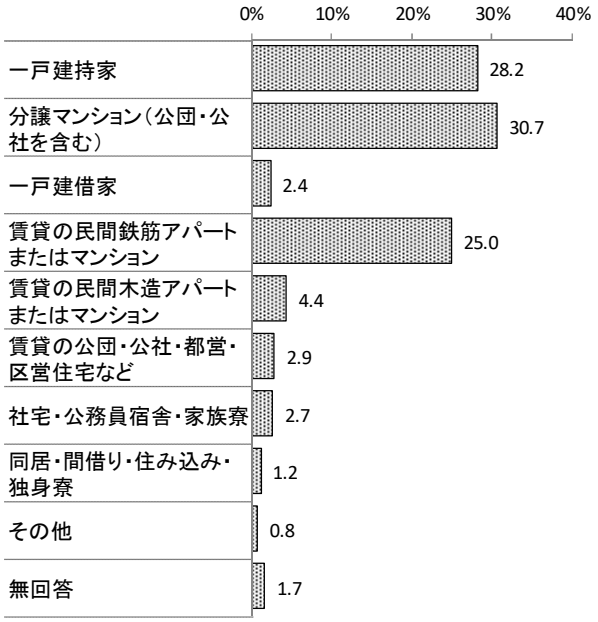
（１）職業



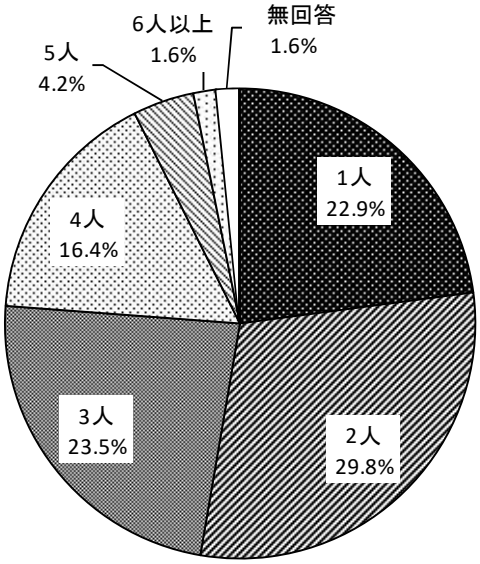
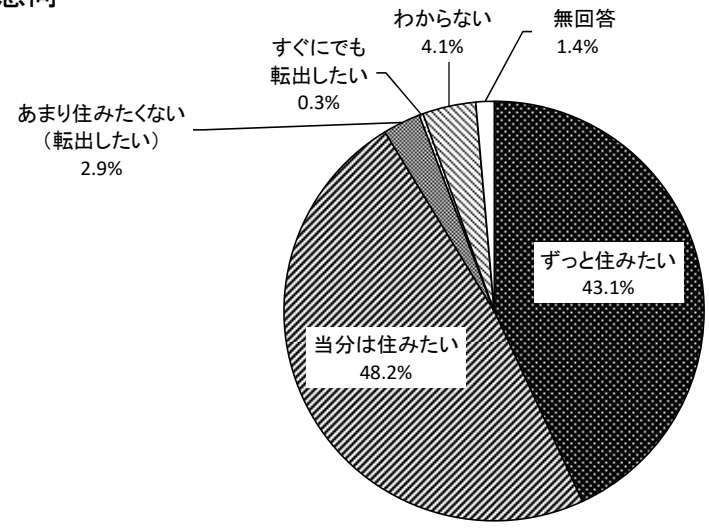
（２）ライフステージ



（３）住居形態



（４）家族人数



（５）定住意向